

国民の安全・安心の確保①

あらゆる関係者により流域全体で行う「流域治水」の推進

気候変動の影響による災害の頻発化・激甚化に対応するため、抜本的な治水対策として、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、ハード・ソフトの両面から「流域治水」を推進しています。

河川、下水道、砂防、海岸等の管理者が主体となって行う治水対策に加え、水田、公園、民間施設、国有地等の機能連携を進めるなど、あらゆる関係者が協働して対策の充実を図ります。

流域のあらゆる関係者が協働して行う「流域治水」対策イメージ



■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削や河川堤防、遊水地等の整備
- ・雨水貯留浸透・排水施設の整備
- ・利水ダム等の事前放流
- ・水田の貯留機能の向上
- ・未活用の国有地を活用した遊水地や雨水貯留浸透施設等の整備など
- ・治水ダムの建設・再生
- ・砂防関係施設の整備
- ・利水ダムの事前放流等の判断に資する雨量予測の高度化
- ・森林整備、治山対策

■被害対象を減少させるための対策

- ・リスクが高い区域における立地抑制や移転誘導など

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・ハザードマップやマイタイムライン等の策定
- ・要配慮者利用施設（医療機関、社会福祉施設等）の浸水対策
- ・渡河部の橋梁や河川に隣接する道路構造物の流失防止対策
- ・浸水対策による避難所機能の維持など

国民の安全・安心の確保②

河道掘削等により浸水被害を防止

大淀川では、平成 17 年 9 月台風 14 号の大規模な出水や、近年の降雨の状況を踏まえて、戦後最大の平成 17 年 9 月洪水と同規模の洪水を安全に流し浸水被害の軽減を図るため河道掘削などを実施しています。

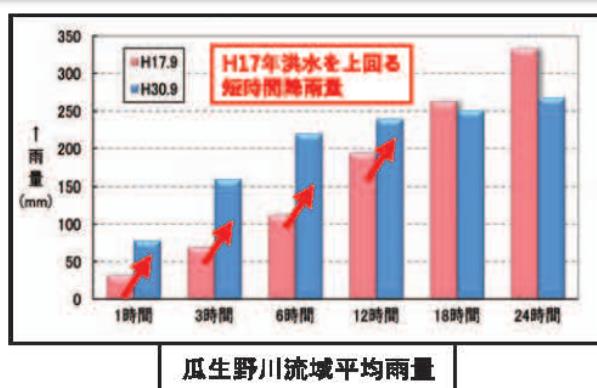
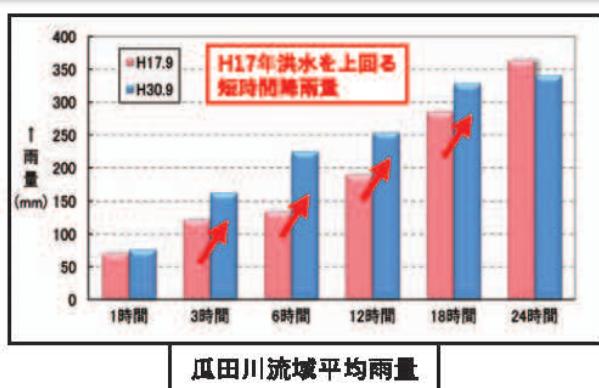


宮崎10号 342k26 下



平成 30 年 9 月 30 日台風 24 号に伴う豪雨により、大淀川下流地区では、短時間降雨で平成 17 年 9 月洪水を上回る降雨量を記録しました。

この豪雨により宮崎市内の各地で内水浸水被害が発生しました。



大淀川では、令和 2 年度までにすすめてきた国土強靭化 3 ヶ年緊急対策にて、出水時の水位低減が図られ内水浸水被害の軽減等の効果が発現されています。今後は「防災・減災、国土強靭化のための 5 ヶ年加速化対策」を実施し更なる被害軽減を図ります。



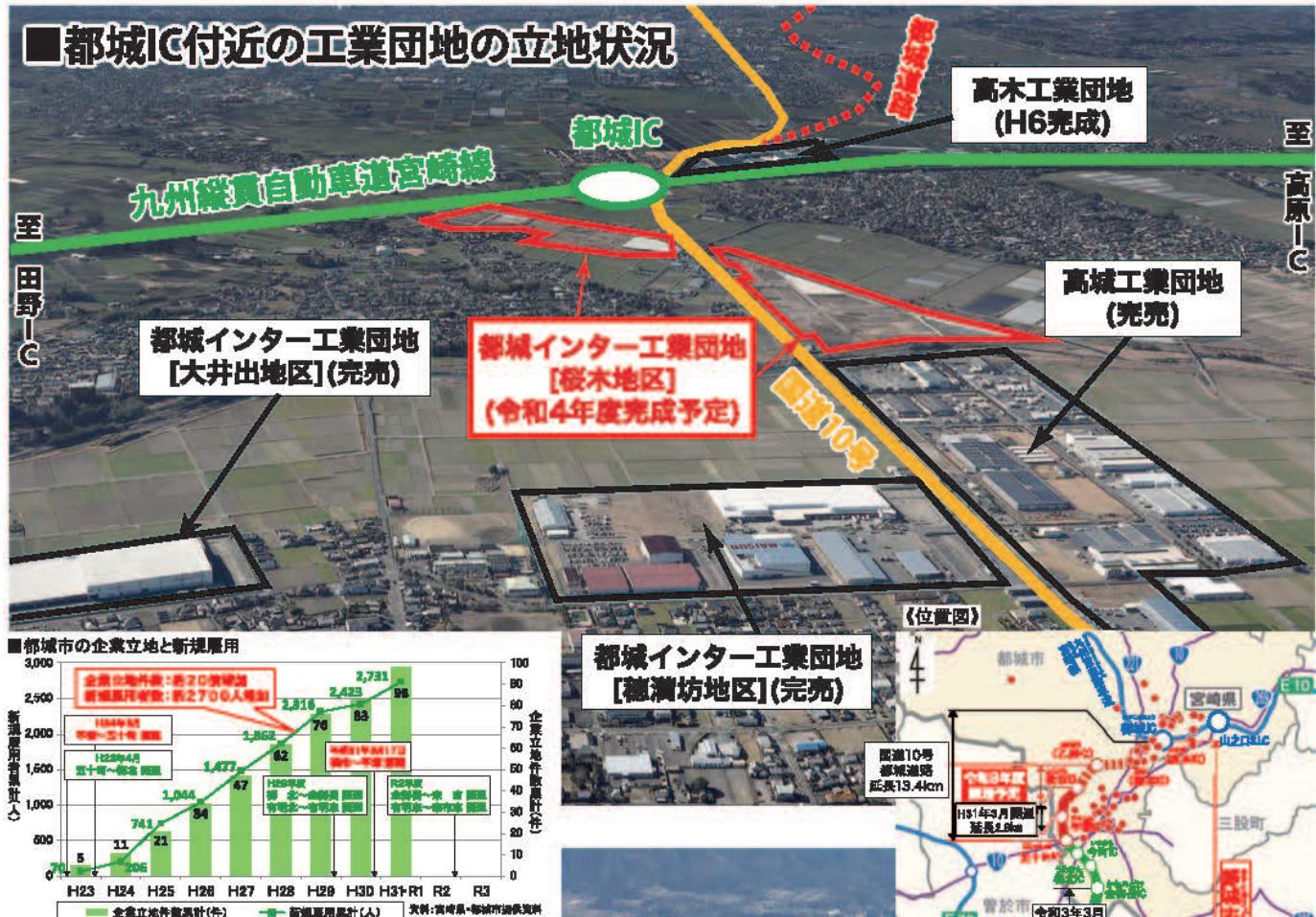
持続的な経済成長の実現①

持続的な経済成長の実現に向けて、生産性向上等の効果を重視した社会資本整備を戦略的かつ計画的に推進しています。

開通を見越して、ICを拠点に産業集積。期待の現れ！【地域高規格道路 都城道路】

都城志布志道路の開通を見越した、都城インター付近と志布志港周辺での工業団地の造成や企業立地の増加に伴い、雇用も増えています。

■都城IC付近の工業団地の立地状況



■志布志港付近の整備状況



持続的な経済成長の実現②

持続的な経済成長の実現に向けて、生産性向上等の効果を重視した社会資本整備を戦略的かつ計画的に推進しています。

神戸発宮崎着のカーフェリー＆バス観光で立ち寄り先が増えて、より魅力的に 【東九州自動車道】



宮崎港



宮崎西IC

宮崎大分間の東九州道がつながり、神戸港発・宮崎港着のカーフェリーと東九州道を利用した観光ツアーが大反響です。東九州道を利用して移動時間が短縮でき、宮崎県北への観光ルートが増えたり、立寄り先や滞在時間が増えたりして魅力的になったためです。

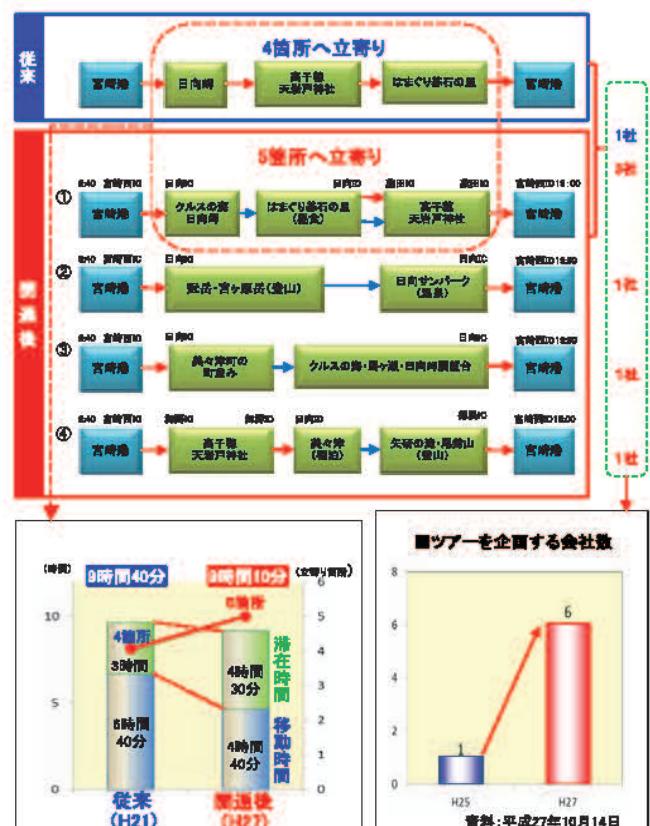
フェリー＆東九州道の1日観光ルートが変化



滞在時間や立寄り先が増加！

ストップ効果！

●カーフェリー＆バス観光の企画ツアーにおいて、移動時間が減り、滞在時間が大幅に増加！



東九州道の開通が観光商品開発のきっかけに！



- ・東九州道を使うことで、移動時間が短縮でき、スケジュールに余裕ができた（8:40宮崎港に到着し、19:00に出航）
- ・高千穂だけでなく日向岬展望台に立寄るなど周遊性の高い旅行商品がたてやすくなった
- ・観光商品として魅力が高まり、大人気商品になった